

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 38

2018年10月発行

通常展+河内木綿まつり

大和川付替えと植田家の收藏品

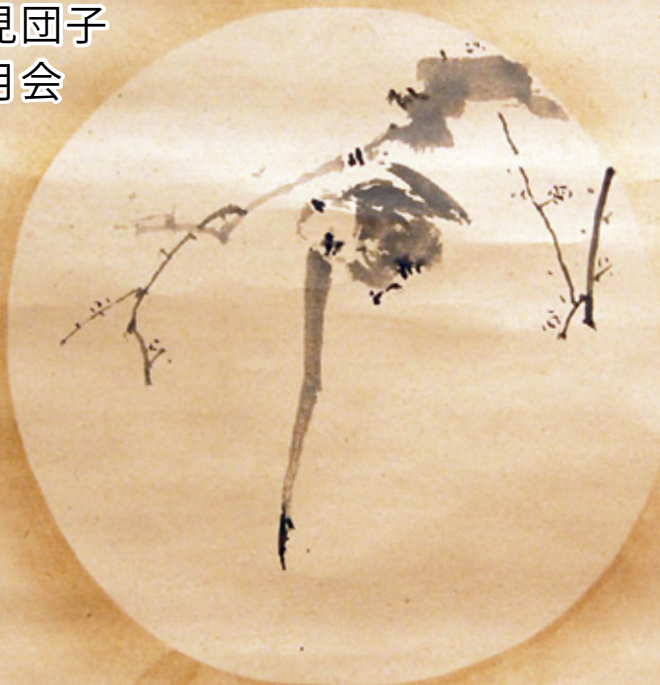
からくり玩具を作ろう

土蔵でクラフト

初企画

かまどで月見団子

& 旧家で観月会



連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十二)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

展示のご案内

まぼろしの河内鉄道を
もう一度…

平成30年度 秋季企画展

新田会所、 時々鉄道




2018年
10/27(土) ▶ 12/24(月)

休館日: 火曜日、11/5(月)・26(月)
開館時間: 9時～17時(入館は16時30分まで)
入館料: 一般250円、高校・大学生120円
中学生以下は無料

田植田家住宅所蔵
「河内鉄道」関係資料
「鉄道関連」資料 他
各新田会所の紹介

「会所建築の魅力、いろいろ」
企画展開催期間 11月25日(日)14時～16時30分
会場 新田会所

四会所交流・特別資料
「ゆかりの一品」展示

※展示内容は
会場でご確認ください。

新田会所
新田会所
新田会所
新田会所



八尾市指定文化財 [指定管理: MIZUUMI] **安中新田会所跡 旧植田家住宅**
〒581-0084 大阪府八尾市植田町1-1-25 TEL: 072-992-5311

秋季企画展「新田会所、時々鉄道」

2018年10月27日(土)～12月24日(月)

大阪府下の新田会所について、所蔵資料やパネルで紹介します。

※休館日はP15をご覧ください

今東光資料館(八尾図書館3階) 第7回 秋季企画展示 「お吟さま」の生きた時代

平成30年9月15日(土)～平成31年3月10日(日)

※P14「コラム 落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十二)」関連

今東光資料館 平成30年度 第7回 秋季企画展示

「お吟さま」の生きた時代

開催期間
平成30年9月15日(土)～平成31年3月10日(日)

展示内容
新田会所、河内鉄道、1950年代、下町、安東の由緒ある
小説「お吟さま」の解説、当時の時代背景などが紹介されます。
「お吟さま」は、この下町を舞台として、時代の変わりゆく安東と
開化、時代は翻るが女性の心の内を、河内出身の作家を通して
紹介されています。

展示内容
展示品、展示品

入館無料

今東光資料館 八尾図書館3階
休館日: 休館日、休館日
開館時間: 9時～17時
TEL: 072-992-5311
〒581-0084 大阪府八尾市植田町1-1-25



Contents

- 4 通常展 + 河内木綿まつり
大和川付替えと植田家の收藏品
- 6 かまどでお月見団子作り
- 7 旧家で観月会
- 8 からくり玩具を作ろう
土蔵でクラフト
- 10 防災！かまどでご飯炊き & 避難訓練
- 11 四会所だより(18)-安中新田会所-
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ③⑧
- 13 植ちょぴ(古民家めぐりスタンプラリー開催中)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十二)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真

えんこうさくげつ
《猿猴捉月》狩野永岳 [1790-1867]

狩野永岳(嶽)は京都生れの画家。狩野永俊の養子となり、京狩野家を継ぐ(9代)。「猿猴捉月」は、猿が井戸に映った月を取ろうと失敗する故事から、身分不相応な大望を抱いて身の破滅を招くことの例え。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

【通常展】+ 河内木綿まつり

大和川付替えと植田家の収蔵品



いつものパネルと工芸品を展示



陶器・金属器・漆器の優品展示

工芸品編

2018.7.20~9.2



お茶道具の展示



蓋置と香合



今年も、

夏のお茶会を開催 8.19



協力:八尾高校茶道部

通常展「大和川付替えと

植田家の収蔵品」

◎工芸品編

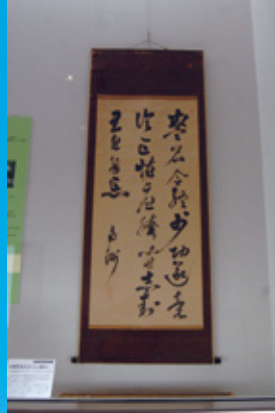
企画展の合間などに行なう毎度おなじみの通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品」では、大和川付替えの歴史や植田家に関する固定のパネルと毎回異なるテーマの収蔵品を展示し、7月から10月までの期間中、前期・後期とに分け、前期は「工芸品編」として、それぞれ優品の展示を行ないました。

いわゆる鑑賞目的の工芸品や実用品がありますが、植田家ではその多くは実用品として用いられていたことが所蔵資料の傾向やまた使用感からうかがい知ることが出来ます。といつても、現在では文化財として保存されているため実際に使うことはほとんど適いませませんが、展示を通して往時の植田家の暮らしぶりを想像することが出来ます。

また8月には、お茶道具の展示にもちなみ、今年で3年目となる「夏のお茶会」を、八尾高校茶道部のご協力によって開催しました。毎年楽しみにして下さっている参加者もあり、緊張感に包まれながらも、丁寧で心のこもったお茶のおもてなしが披露されました。

資料編

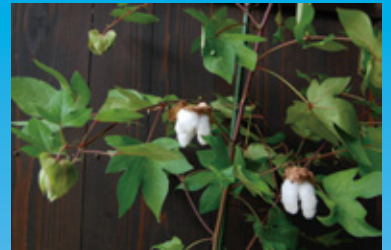
2018.9.5~10.24



密かに西郷の書も展示



植田家所蔵の河内木綿資料の展示



綿がふく季節。

第十回 河内木綿まつりの開催 9.15

(八尾市立歴史民俗資料館主催)



綿繰り・糸車を体験



故寺尾和一郎氏の資料展示



展示室でも寺尾氏の作品や資料を展示



◎資料編

9月からの後期「資料編」では、同じパネルに加えて河内木綿資料を中心に展示を行ないました。当初は古文書資料を予定していましたが、9月から10月にかけては綿の収穫時期でもあり、今に残る河内木綿の歴史や貴重な資料を伝える機会としました。

産業としての河内木綿は残念ながら明治時代に衰退し、資料もあまり多く残っていません。しかし、実用品として、わずかに着物や幟、風呂敷などに見ることが出来ます。特に安中新田あるいは植田家ゆかりの木綿は他の文化財として位置づけることもできます。

また今回の資料編では、毎年開催される「河内木綿まつり」に合わせて、「故寺尾和一郎氏寄贈資料」の展示も行ないました。独学で河内木綿について学び、平成13年に亡くなられるまで、この八尾の地で綿の栽培から機織までを一人でされていた農家の寺尾氏は、知る人ぞ知る八尾の偉人です。偉人といえば、今話題の西郷隆盛の書が植田家に所蔵され、これも今回の資料編で密かに展示しました。

大和川の付替えだけでなく、まだまだ楽しめる植田家の収蔵品に、今後もご期待ください。

(旧植田家住宅学芸員 安藤亮)

かまどで つきみだんご 月見団子作り

関西式?
関東式?

2018年9月23日(日・祝)



かまどで月見団子作り

久しぶりにすつきりと晴れた祝日。一番小さい1才9カ月の子どもを含めた21名の子どもたちを3つの班に分けたら、団子作りのスタートです。

子どもたちに聞くと月見団子はやはりまん丸な団子を三宝(台)にピラミッドのように積み上げたイメージのようでしたが、「食べたことのあるのは?」の質問には「あんこのついたやつ」。関西では「芋名月」というように、里芋の収穫時期、収穫に感謝して、団子とあんこを里芋の形に見立て、関東では名月をたたえてまん丸お月様の形…とレクチャー。

もちろんほとんどの子が月見団子作りは初めての体験。上新粉にお湯を入れ、



かまどでお湯を沸かして、ゆでる

「アツイ!」「手にひつつく、ベタベタ」と大騒ぎしながらこね、それをかまどでゆでて、今度はめん棒で「おもちつきみたいやな。楽しい!」。そして1人ずつ小さな団子に丸めてゆくのですが、ハンバーガー型にしたり、猫やへびの形にしたりと、ほぼ粘土遊びになってしまいました。(笑)

こねて丸める過程で様々な感触を楽しみ、最後はモチモチになった団子にきな粉やあんソースをかけて、おいしく、びっくりするほど沢山食べたけど、「ママにお土産にあげる」と大事に持ち帰った子もいました。

最後はみんな満月のようなおいしい笑顔でした。

(澤田知英子)



まん丸お月様の形に、丸める

ちよつと大人なお月見…

きゅう か かん げつ かい
旧家で観月会

2018年9月23日(日・祝)

庭でお月見、
 座敷で雅楽・掛軸を
 お茶菓子とともに。

座敷では、揃いの法被を着た「許麻神社
 雅桜会」による雅楽演奏が始まり、なんと心
 心地良い笙の音や龍笛、箏、筆策…。そして
 二人の素敵な巫女さんによる巫女舞が厳か
 に始まると、参加者の背筋もいつの間にか
 ピンと伸び、雅楽の世界へ引き込まれていき、

「お月見会とか、ないの？」との数年前
 からの要望に答えて、初企画となったこの
 催し。昼間の「月見団子作り」が子ども対象
 の企画だったので、思い切って「大人のため
 の観月会」としました。

ちよつと大人な観月会



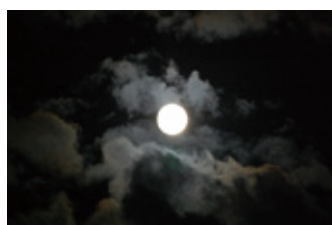
雲間に隠れた月



雅楽と巫女舞



雅桜会による雅楽演奏と解説



雲の切れ間から現れた月

演奏中になんと雲の切れ間からキレイな月
 も出てきました。

途中休憩をはさみ、じっくり掛軸を鑑賞
 したり、お団子とお抹茶をいただきながら、
 お喋りを楽しんでいるうちに、第二部が始
 まり、最後には巫女さんから参加者全員、
 頭の上で鈴を振って祓い清めまでしてい
 だし、清々しい気持ちになりました。

雅桜会の方々から、雅楽の曲のお話や楽器
 の説明、笙は鳳凰が羽を閉じている姿から
 「火」が龍笛には「水」など、それぞれ意味
 をもつことなど、興味深いお話も聞かせて
 もらいました。

寺社に奉納される雅楽に巫女舞で、つかの
 間の静謐な空気に包まれ、まさに「ちよつと
 大人な」観月会を楽しみました。

(澤田知英子)

8/10(金)

第1回 木綿の実綿で動物を作ろう



第1回は去年に引き続き「木綿の実綿とハギレを使った綿の犬雛作り」を行ないました。それぞれ好みの布を選び、型紙にあわせて裁断、難関の針に糸通しを何とか越えて、綿練りした種を詰めて胴体を縫い合わせます。顔の部分は綿をそのまま使い、あとは理想の位置に目と鼻を付ければ、デコレーションをして完成。それぞれ個性的で可愛い綿犬たちが出来上がりました。



完成した綿犬たちと記念撮影



夏休みの宿題に!

クラフト

からくり玩具を作ろう!

第2回は、江戸時代のからくり玩具「猫と鼠」を、身近にある道具や余った廃材パネルを利用して作りました。猫が乗った箱のフタを後ろに引くと中からネズミが出てくるという単純な玩具ながら、そのからくりを理解し、紙粘土で猫とネズミを作り、箱の組み立て作業を経て、ユニークな作品に仕上がりました。今回猫の着色は都合上できず、全員白猫になったことはいうまでもありません。



ワイワイとにぎやかな作業風景



8/17(金)

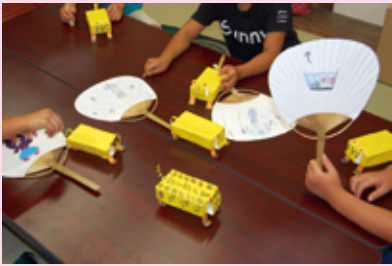
第2回 からくり玩具(猫と鼠)を作ろう

8/24(金)

第3回 からくり玩具(ずぼんぼ)を作ろう



第3回も「からくり玩具」作りで、今回は団扇^{うちわ}の風で宙を舞う「ずぼんぼ」に挑戦しました。まずは予め用意した無地の竹団扇に絵付けをしてもらい、そのあと「ずぼんぼ」本体を切り抜いて組み立てる作業を行ないました。さてこの「ずぼんぼ」(虎)たち、上手く宙を舞うのでしょうか。子供たちは自分で絵付した団扇を使って一生懸命に虎をおおぎますが、「おおく飛んだ!」。残念ながら写真には写っていません。



きれいに絵付けた団扇にずぼんぼ(虎)が大集合。

夏へ 2018

どぞう 土蔵で

身近な素材を使って小物や

第4回は今年も廃材パネルを利用したオリジナル編み機を使って「ミニすだれ」作りをしました。ひたすら編むという単純作業ですが、去年その感動を味わった子どもたちが再び参加し、新しい子と一緒にすだれ作りを楽しみました。お好みの長さになると、最後に折り紙や絵葉書で飾りつけをして完成。昨年と同様に、出来立てのすだれをマスクの様に頭に装着した「スタレマン!」が今年も参上しました。



第4回 編み機でミニすだれを作ろう

8/31(金)



避難訓練、実施中！

かまど、初挑戦！



2018.9.2

防災！かまどでご飯炊き体験&避難訓練



毎年9月は「防災の日」とかまどでご飯炊き体験をミックスした企画「防災！かまどでご飯炊き体験」を実施。今は電気やガスでご飯を炊くのが当たり前の時代ですが、ひとたび災害によりライフラインが止まると、私たちは生活に困ってしまいます。そのような事態に備えて、昔のくらしから学び、また最新の防災についても学ぶ機会として、本企画を実施しています。（例年の内容については、植田家だよりバックナンバーを参照）

さて今回は、いつも職員間で行なっている「消防避難訓練」を追加し、参加者と一緒に実施しました。音声データによる非常ベルの音と非常灯の音声が鳴ると、慌ただしく職員は避難誘導と初期消火に当たり、参加者はそれに従って一斉に避難しました。文化財施設ともあり、人命を最優先しつつ、展示物等の保護や防火を目的に、避難誘導が済んだ土蔵などは、確認の意味を含めて扉を全部閉めます。昔は延焼を防ぐために「鳶口」という道具を使って、建物等を壊したそうですが、さすがにそれはできません。消防署への通報準備も整い、無事訓練が終了しました。さあ、あとはしっかりとご飯を炊いて、防災意識とお腹をいっぱい。

（旧植田家住宅スタッフ）

四会所だより (18)

企画展「新田会所、時々鉄道」



安中新田会所跡旧植田家住宅では、10月27日(土)～12月24日(月)の期間、秋季企画展「新田会所、時々鉄道」を開催しています。

かつて大坂では大和川付け替えによって多くの新田が開発され、人々の暮らしや歴史、環境が大きく変わりました。そして、その新田を管理するための管理事務所として「会所」も各所に設けられました。現在そのほとんどは失われましたが、3万8千点にのぼる旧植田家住宅の古文書の中から、新田開発の様子や新田会所の役割を今に伝える資料を一部展示しています。また、新田と関わりのある「鉄道」に関する資料もあわせて展示を行っています。

旧植田家住宅のある安中新田は、旧大和川である久宝寺川(現長瀬川)跡に開発され、ここは現在のJＲ大和路線の

一部になっています。明治22年の「八尾」駅開業から、その用地として新田が使われていることや、植田家5代目一郎の時代、同じく旧大和川であった玉櫛川(現玉串川)跡の新田を通る「河内鉄道」の敷設計画とも関わりがあります。河内鉄道の計画は残念ながら「まぼろし」と終わってしまいましたが、資料からは当時の社会状況やそこにかける人たちの熱意が伝わってきます。

また本企画展では、この「四会所だより」を発信する「四会所交流」を通じて、鴻池新田、加賀屋新田、平野屋新田の各会所跡から「ゆかりの一品」を特別にお借りし、展示を行なっています。展示内容については「お楽しみ」ということで、ぜひ会場に足を運んでご確認いただければと思います。この秋、今にのこる新田会所の魅力やその歴史にふれてみてはいかがでしょうか。もちろん便利な鉄道で。

(安中新田会所跡旧植田家住宅 安藤亮)

四会所交流・特別資料「ゆかりの一品」展示



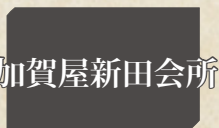
鴻池新田会所

●鴻池新田会所跡

- ・東大阪市鴻池元町2-30
- ・JR学研都市線「鴻池新田」駅下車、南東に徒歩5分
- ・10:00～16:00(月曜日、祝日の翌日は休館)



・大人300円、小・中学200円



加賀屋新田会所

●加賀屋緑地 / 加賀屋新田会所跡

- ・大阪市住之江区南加賀屋4-8
- ・地下鉄「住之江公園」駅下車、南東に徒歩15分
- ・市バス「南加賀屋四丁目」下車、徒歩5分



・10:00～16:30 開園(月曜、年末年始は休館)
・無料



平野屋新田会所

●大東市立歴史民俗資料館

- ・大東市野崎3-6-1(来ぶらり四条2階)
- ・JR学研都市線「野崎」駅下車、徒歩約10分
- ・9:30～19:30開館(第1・3火曜日は休館)



※平野屋新田会所跡はここではありません。



なにわの伝統野菜 栽培日記

No.38



黒門越瓜

くろもんしろうり



変な形だから変な形…。



【異常気象の影響!?】
この前までの猛暑がウソのように朝晩冷え込む最近。あの暑さで畑の作物も最悪な状態になった。例えば植田家定番の夏野菜「黒門越瓜」はこ〜んな感じに…。



勝間南瓜

かつまなんきん



たったの14個…。

このような変な形になるのは毎年収穫も終りに近づいた頃。しかし今年が一番良いはずの初期からコレだ。できた数も極小のものをに入れても、いつもの四分の一にも届かなかった。
ほぼ放置していても次々できる勝間南瓜もたったの14個。こちらもたいがい軽く50〜60個は収穫できるのだが。あまりの暑さに受粉してくれる虫たちの動きが鈍く、せつかく咲いた雌花が受粉できないまま次々と落ちた。おまけに大量発生したウリハムシに花自体をボロボロに食われたこともあり、人工授粉の効果もほぼなかった。オレンジに色付いた4個は中期以後にやっとできたもので、残りの若いものは気温がやつと落ち着き葉も枯れた撤去ギリギリに慌てて実をつけたもの。

こんな感じで、いつもは数個ずつ収穫したものを持ち帰る畑メンバーも、今回は分配なし!! 11月に行なわれる「旧家で食事会」で使用するため、ほぼ全て保管することにした。

ということ、微々たる量を分け合う試食のみとなった。「まあ、こんな年もあるって!」と笑うしかないが、さすがにここ数年の異常気象には、ほとんど頭がいたい。今わたしの目の前には、まだ幼い田辺大根と天王寺カブラが台風の風にあおられ、傾いている(涙)

【みんなでもみもみ♪】

黒門越瓜の収穫後の試食では、それぞれ子どもにボールを渡し、自ら塩もみ、好きな味付けをしてもらった。普段は私が作ったものを皆で分けるのだが、いつもと違うパターンと自分で作った満足感も加わり、かなりワイワイ楽しい試食となった。
…よしよし、これで量が少ないのをごまかすことができた(笑)



マンジークン

安富士 暁



告知

植ちよピ(ックス)

「植田家住宅のちよっとしたトビックス」

◆河内の古民家めぐりスタンプラリー

2018年10月13日(土)〜11月30日(金)

今年もこの時期がやってきました。11月の関西文化の日を記念して、今回で3回目の開催となる「河内の古民家めぐりスタンプラリー」。大阪府下(河内地域)の古民家が連携し、各所でスタンプの設置と特別公開などを行ないます。参加古民家は去年の13住宅から、今年は何と16住宅になり、目的とする「古民家の保存と継承」のPRに大きくつながるものとなりました。

参加古民家

- ① 梶谷家住宅(河内長野市・市指定文化財)
- ② 西條合資会社旧店舗(〃・国登録有形文化財)
- ③ 旧杉山家住宅(富田林市・国重要文化財)
- ④ 畑田家住宅(羽曳野市・市指定・元国登録文化財)
- ⑤ 吉村家住宅(〃・国重要文化財)
- ⑥ 田中家住宅(松原市・国登録有形文化財)
- ⑦ 寺田家住宅(〃・国登録有形文化財)
- ⑧ 藤野家住宅(藤井寺市・国登録有形文化財)
- ⑨ 松永家住宅(〃・松永白洲記念館)
- ⑩ 三田家住宅(柏原市・国重要文化財)
- ⑪ 寺田家住宅(〃・国登録有形文化財)
- ⑫ 旧植田家住宅(八尾市・市指定文化財)
- ⑬ 萩原家住宅(茶古庵)(〃・国登録申請中)
- ⑭ 旧河澄家住宅(東大阪市・市指定文化財)
- ⑮ 旧藤井家住宅(〃・国登録有形文化財)
- ⑯ 川中家住宅(〃・国登録有形文化財)

※詳細はHPまたはFB(フェイスブック)をご覧ください

河内の古民家めぐりスタンプラリー2018 連携事業

古民家のある河内の街を歩く

10コースのまち歩きツアーがスタート!

今年も「河内の古民家めぐりスタンプラリー」2018を開催します。10月13日(土)から11月30日(金)まで、河内地域の古民家めぐりスタンプラリーを開催します。今年も「河内の古民家めぐりスタンプラリー」2018を開催します。10月13日(土)から11月30日(金)まで、河内地域の古民家めぐりスタンプラリーを開催します。

10/13 東大阪の古民家めぐりまち歩き

10/16 茶古庵・萩原邸と恵豊、東高野街道かいらいを歩く

10/20 「古民家のある風景」

10/28 「真岡街道から見える歴史風景」

11/3 松原の古民家見学と界隈ウォーキング

11/3 「高野街道から見える風景」を歩く

11/10 澁川道古民家菟田邸と聖徳太子命がりの藤原寺を訪ねて

11/11 江戸時代の家風道まち歩き

11/17 明治の鉄道遺産と古民家を訪ねるまち歩き

11/23 富田林寺内町 歴史まち歩きツアー

関西文化の日 記念イベント

河内の古民家めぐりスタンプラリー

2018年10月13日(土)〜11月30日(金)

スタンプラリー開催期間

2018

河内の古民家めぐりスタンプラリー実行委員会

今年は「古民家めぐり まちあるきツアー」も実施 (※すでに終了したものを含みます)

古民家めぐりスタンプラリー 2018

落穂拾い

― 今東光の董風 ― (三十二)

文・伊東健

生誕百二十年を迎えた今東光ですが、直木賞受賞から数えてもすでに六十一年を経過しました。東光の代表作であり、文壇復帰作でもある「お吟さま」の発表から半世紀以上を経ていますが、この作品が出版されていく過程には、色褪せない物語が秘められています。

東光は直木賞受賞後の様子について、自身が社長に就任していた中外日報紙上の「鴨東雑記」に詳しく記していきます。単行本化されていないのが残念ですが、日記のように、いや、むしろ現在でいうブログのように、ほぼ毎日書き続けられた文章には東光の日常が綴られています。その中に、「お吟さま」出版をめぐるシリアスな場面も残されています。昭和三十二年一月二十一日に直木賞受賞決定の電報を受け取った五日後の出来事が、次のように記されています。紙上での掲載は二月一日付です。

今日は二十六日の土曜なので出社する。皆

から直木賞のお祝いを受ける。あき子さんも来られる。淡交社の白井編集長が来る。

(中略)

京都新聞の企画は、僕と淡交社長千嘉治君と、大映のシナリオライター依田義賢君の三人に「お吟さま」を語らせるつもり。仕様がないからあれこれとしゃべった。

皆がいなくなつてから、嘉治君と井口海仙さんと、後から裏千家若宗匠千宗興君の三人と相談する。というのは拙作「お吟さま」を文藝春秋社から出版したいという申し出があり、淡交社でも出版したいというので、結論を出すためだ。

誰が考えても玄人くろねこの大出版社の文藝春秋社から出す方が有利だと言っただが、家内は、淡交社がたとえ素人でも、淡交社の面目を踏みつぶしてまで出版するのは僕らしくないという説。

そこで僕は嘉治君が出版人としての決意が聞きたかった。千家の七光りでやるのでは困る。素っ裸の出版屋として社会と対決するなら、悦んで提供しようと言った。

実際の話、今どきこんな損なことをするのは僕だけだろうが、僕みたいな男に連れ添う女房も損得のそろばんがわからないのだから、うまく出来ていると思った。

夜しとしと春雨のよつな雨の中を、わが家

にもどつたら終電車だった。

(「鴨東雑記」中外日報、昭和三十二(一九五七)年

二月一日発行より)

「お吟さま」はこの約一ヶ月後の二月二十日に淡交社から発行されます。淡交社にとつて初めてとなる一般書籍の出版でした。発行前夜の様子も、以下のように記されています。

六時ごろ、家から電話で呼び返された。淡交社の白井編集長が「お吟さま」の見本と、検印紙を持って京都から来たのだ。装幀は和田三造画伯の筆、桃山時代の衣裳のように華麗なもので、僕が今まで出した本の中では最も派手な、美しいものとなった。今夜中に少しでも判を捺してほしいということで、検印紙に家内や原田正道まで手伝って押しはじめる。(後略)

(前掲、二月二十日発行より)

真冬の夜、天台院で黙々と検印を押す今東光、奥さんのきよさん、当時天台院に居候していたという大学生の原田氏、そして淡交社編集長の白井史朗さん。発行部数確認の検印が残っていた時代、出版の歴史も垣間見ることのできる、微笑ましくもリアルな場面です。

【2018年11月～2019年1月】

旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」

// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

展示

◎10月27日(土)～12月24日(月)

秋季企画展「新田会所、時々鉄道」

◇11/23(金・祝)ギャラリートーク(学芸員の立ち話)

①13:30～ ②14:30～ 各20分程・同内容

2019年

◎1月5日(土)～3月11日(月)

企画展「昔のくらしシリーズ:食の道具」

◇2/11(祝)ギャラリートーク(学芸員の立ち話)

①13:30～ ②14:30～ 各20分程・同内容

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



企画

(詳しくはお問い合わせください)

11月

■ 3日(土)～25日(日)旧家で記念撮影「七五三」

□11日(日)旧家でコンサート～伝統民家と伝統楽器～

■17日(土)市内鉄道まちあるき～童華操車場いまむかし～
植松灯笼の日(夜間開館)

□25日(日)企画展関連講演会「会所建築の魅力、いろいろ」

■30日(金)旧家で食事会

(講師:植松清志氏)

★河内の古民家めぐりスタンプラリー 11/30まで開催

12月

■ 8日(土)こどもガイド体験講座(冬)

□22日(土)すこし昔のくらし体験～おもちつき～

2019年

1月

■ 6日(日)～27日(日)旧家で記念撮影「成人の日」

□20日(日)こどものためのお茶会

★「関西文化の日」により、
17(土)・18(日)は入館無料

休館日カレンダー

■ = 休館日

■ はイベント開催日



11 November

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12 December

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2019/ 1 January

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

●開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日:火曜日・祝日の翌日・年末年始
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料:一般250円(団体20人以上で120円)
高校・大学生120円(団体60円)

※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者および介助者は無料

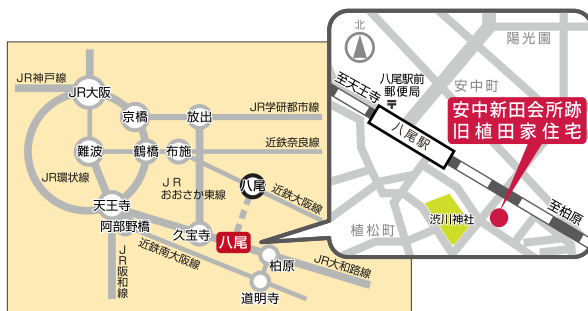
●お問い合わせ・見学のご相談 ※施設案内(無料)、講座室利用(有料)など

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX:072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大和線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行

JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性化させたいと思っています。

